

大会宣言

私たちJR総連は6月4日～5日、水上ホテル聚楽において第22回定期大会を開催した。JR発足から20年を迎える中での今定期大会は、国鉄改革完遂に向けた節目の大会である。大会では、繰り返される組織破壊攻撃を粉碎する闘いや、鉄道の安全再確立に向けた闘いを職場から構築する運動を一步一步切り拓いてきた地平を確認し、今後も全力で闘っていく方針を確立した。

小泉自民党は、今国会で平成の治安維持法といえる「共謀罪」の新設や、愛国心を強制する「教育基本法」の改悪を提案し、憲法改悪に向けた「国民投票法案」を審議しようとしている。また、米軍再編に関する基本方針の提出も閣議決定している。

一方、社会保障制度の改悪により国民生活は苦境に立たされ、自殺者が3万人を越す状況を招いている。そうした中で、政府・自民党は憲法9条を改悪し、国民を戦争に駆り出す徴兵制をも確立させつつ「戦争のできる国」づくりを進めようとしているのだ。

私たちはあくまで憲法を守り、平和な社会を創造する闘いを進めていく。

また他方で、JR総連やその傘下单組への弾圧は枚挙にいとまがない。それは反対勢力の弱体化を狙い、ありもしない事件までデッチ上げつつおこなわれている。「えん罪JR浦和電車区事件」や「東京駅事件」、さらに被害者の存在しない「業務上横領」容疑などのデッチ上げがそれである。美世志会7名への不当逮捕と344日間の勾留は、人権無視以外の何物でもなく労働運動の破壊を狙った攻撃である。また、JR総連・東労組の人格的代表者である松崎前顧問への「業務上横領」デッチ上げは政治弾圧であり、「国策捜査」として強行されている。

私たちは「反弹圧・総団結」方針の下、松崎前顧問とともにこの攻撃を打ち砕き、前進する。

このようなJR総連への弾圧を下支えしているのが、JR連合・国労、そして嶋田一味らである。山下八洲夫参議院議員の「JR総連・JR東労組などに浸透する革マル派の実態」といった『質問主意書』提出や、ネット上の『嶋田たちのホームページ』『猛獣王国』、谷川忍著の『小説 労働組合』などは、JR総連・東労組の組織破壊攻撃そのものであり、断じて許すわけにはいかない。同時に、組織内からそれらに同調し、組織破壊を画策する連中も許すことは出来ない。労働運動の歴史がそうであったように、弾圧は常に内部から攻撃を下支えする組織破壊者をつくり出しおこなわれてきた。

私たちは、仲間の絆と団結で組織攻撃を一蹴し、強固な組織を確立する。

時代は、戦争と貧困と格差の拡大が進行している。グローバリズム社会では強い者はより強く、大多数の弱い者はより底辺を強いられるという「二極化」へと突き進んでいる。この流れは人間の心の荒廃のみならず、自然や環境を破壊しつくす勢いだ。

私たちに問われているのは、平和と安全を守ることを通じ、子供たちが安心して生きることのできる社会を残すことである。その未来は、労働組合が社会正義の闘いをその先頭で築き上げることによって切り開かれる。私たちJR総連は、あらゆる組織破壊攻撃をはねのけ、国鉄改革の完遂と安心して暮らせる平和な社会の実現に向けて全組合員で奮闘する。

以上宣言する。

2006年6月5日

全日本鉄道労働組合総連合会
第22回定期大会